

# 達磨拳本部

〒589-0023  
大阪狭山市大野台1-32-70  
カルチャー・オアシス 達磨庵内  
TEL.072-367-0255



大阪狭山市大野台一丁目界隈、その一角から土曜日の朝、  
「えいっ、やあーっ」と気合いの籠った声が響いてきます。声を辿って行きますと一軒の家の前の柱に「達磨拳本部」なる木板の看板、表の壁に達磨さんの絵と道場案内の書かれた掲示板のようなものが張られていて、  
くだんの声はその家の中から聞こえてきました。玄関の扉は開いて奥に幾人もの白い人影が動

いています。玄関への階段を上って案内を乞うと「はあーい」と太い声が出て稽古着姿のがっしりした体格の男性の出迎えを受けました。  
**大北勝弘さん、今回特集の「達磨拳」創始の人です。**  
「AGUA」今号は、スマホやコンピュータゲーム等IT機器の繁乱する中、その対極にあるとも云える精神と肉体の鍛

錬を基本とした一つの武道塾を特集します。  
これからは暫く大北さんに説明を受けながら稽古風景のルポになります。道場に入ると白い道着を身につけた20余名の少年達（内2名は少女）が男女2人の師範格の指導者に導かれて大きな声を放って型を習っています。稽古は先ず全員が座禅を組み、心を静めることから始まります。六尺棒のようなもので姿勢の乱れを直されている者もいます。それが終わると立ち並んでの練習に入ります。準備運動をきちっとしてから技を行うのです。抜き技、突き、蹴りと続き徐々に激しい動きになってきます。相手の目を見据えて大きな掛声をかけ動作をそれに乗せていきます。声が小さいと動きも弱くなります。それが済むと2人ずつ組んで組手の練習。これを小学生がやるのです。土曜日の午前中はジュニアクラスの練習時間となっています。道場では練習者を拳士と呼びます。拳士は柔道の黒帯のように帯の色でランクが決められていて初心者から白、青、黄、緑、茶と上っていきます。休憩時間に少年拳士達に聞いてみました。どんなきっかけでこの達磨拳に入ったのか聞くと、「強く



## 武道による「人づくり塾」



いいます。会員は有段者、上級者で13名。ずらりと並んでの演武は大した重量感です。女性は四段の師範格1名と先日初段昇格の1さんと合わせて2名です。この1さんは入会して3年目の若い女性ですが、入会のきっかけは「自分の身は自分で守らねば」と思いネットで調べて大北先生を知り、訪ねて話をした先生の情熱に感動して入会したそうです。ここでの学びが社会人としての仕事の場でも大変役に立っていて、営業関係の仕事だが相手の人との交渉時にも道場での「気の流れ」のようなものが働きスムーズに相手の心に入っている事源になっていると云います。

達磨拳本部は昨年5周年を迎え、一歩一歩と大北さんの創始の思いの実現に向かって歩んでいます。筆者がそこに見たのは迸る生の声、突き蹴り、投げ叩きつける生の鉢のぶつかり合い。一つ一つの行為は激しく痛くもあるけれどその場に漂う生気とある種の暖かさ、そこには人間同志の真のスキンシップ、心の交流がある様に思いました。

「徳育」だと強く感じたのです。知育、体育、徳育という人間教育の基となる教えの中で人として一番大切な「徳育」の欠如、これを何とか取り戻したい。自分が人生を通して歩んできた少林寺拳法を基とし武道を通して人を育てることが出来たらと考えてきました。強くなることも必要だがそれと同時に自分の行動に責任を持ち正しいと思うことを、勇気を持って実行できる子どもを育てたい。それには精神のバックボーンが必要と勉強を重ねた末に見つけたのが中国禅

なりたい」が一番でしたが「お母さんに行くと云われて」というのが数人居て母の強さが窺えた一言でした。激しい稽古をどう思うかと聞くと、「しんどいけど楽しい」「元気が出る」「友達と一緒に居る楽しさが良い」等の返事が返ってきました。

と、今の人間に欠けているのは「徳育」だと強く感じたのです。知育、体育、徳育という人間教育の基となる教えの中で人として一番大切な「徳育」の欠如、これを何とか取り戻したい。自分が人生を通して歩んできた少林寺拳法を基とし武道を通して人を育てることが出来たらと考えてきました。強くなることも必要だがそれと同時に自分の行動に責任を持ち正しいと思うことを、勇気を持って実行できる子どもを育てたい。それには精神のバックボーンが必要と勉強を重ねた末に見つけたのが中国禅

**大北勝弘さんはこの「達磨拳」創始についてこう語っています。**

『私は35年以上にわたって少林寺拳法の指導をし、1200人もの拳士を育て上げました。しかし、5年前最近のニュースで報道される数々の事件を考える



初段昇格1さん



師家：大北勝弘氏

